箱根山の火山活動解説資料（令和８年 10 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

GNSS 連続観測では、一部の基線でわずかな伸びの変化がみられていましたが、８月頃から停滞しています。
地震活動は低調に経過しており、火山活動は概ね静穏に推移しています。
大涌谷周辺の想定火口域では、活発な噴気活動が続いていますので、火山灰等の突発的な噴出現象に注意が必要です。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図１、図２、図３－１①）

大涌谷では、依然活発な噴気活動が続いており、今期間の最大の噴気の高さは 500ｍでした。

宮城野監視カメラ（大涌谷の東北東約３km）による観測では、早雲地獄の噴気の高さは100ｍ以下で経過しており、噴気は少ない状態が続いています。

大涌谷監視カメラによる観測では、大涌谷の地熱域の広がりに特段の変化は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図３－１②、図４）

21 日に駒ヶ岳付近を震源とする地震が増加しました。このうち、02 時 40 分に発生したマグニチュード 2.1 の地震では、小田原市久野で震度１を観測しました。これらの地震活動に伴う、噴気活動や地殻変動に変化は認められませんでした。

浅い低周波地震や火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図３－１、図３－２、図３－３）

GNSS連続観測では、一部の基線で５月頃からわずかな伸びの変化がみられていましたが、８月頃から停滞しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
次回の火山活動解説資料（令和８年 11 月分）は令和８年 12 月８日に発表する予定です。
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、神奈川県温泉地学研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。
資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『基盤地図情報』『数値地図 50ｍメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『電子地形図（タイル）』を使用しています。

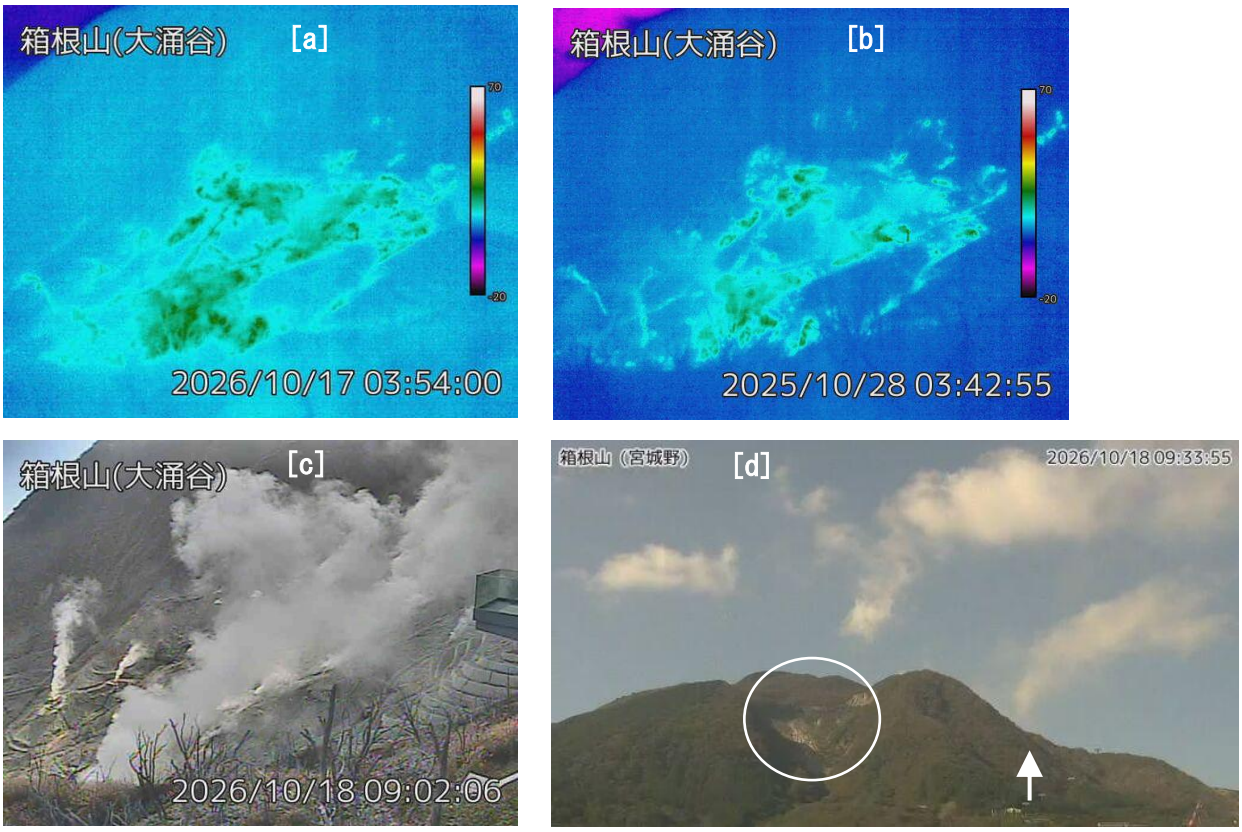


図１　箱根山　大涌谷及び早雲地獄の状況（a～c：大涌谷監視カメラによる、d：宮城野監視カメラによる）
円内は早雲地獄からの噴気の状況。
宮城野監視カメラでは、大涌谷からの噴気の高さが概ね 100m以上の場合、その噴気が矢印で示す位置付近で観測されます。

・大涌谷では活発な噴気活動が続いています。早雲地獄では、噴気は少ない状態が続いています。
・噴気量等の影響により地熱域の見え方が異なりますが、特段の変化はないと考えています。

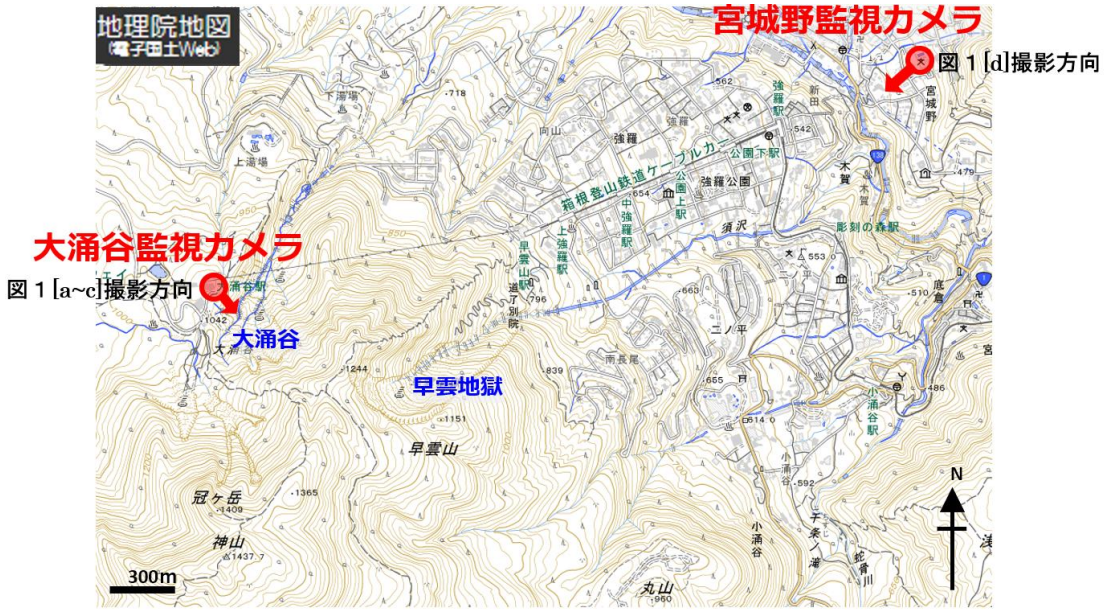


図２　箱根山　噴気場所（大涌谷・早雲地獄）位置図及び撮影場所
赤丸及び赤矢印は監視カメラ設置場所及びその撮影方向

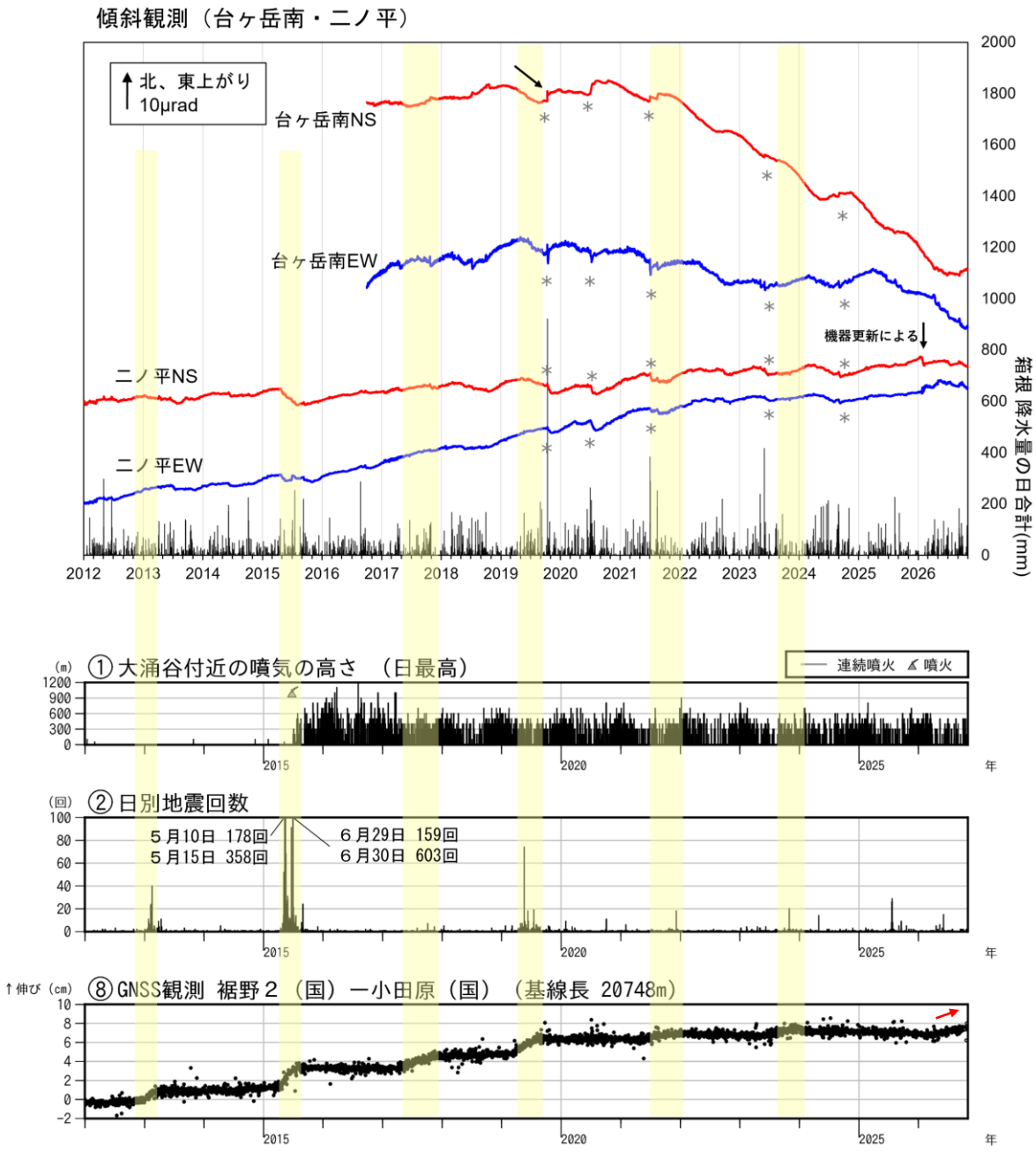


図３－１　箱根山　火山活動経過図（2012 年１月１日～2026 年 10 月 31 日）

＊印は降水による影響と考えられる変動を示します。
②は図４震央分布図中の円内（駒ヶ岳(温)から半径５km、深さ 10 km以内）でM0.2 以上の地震を計数しています。
⑧は図３－２のGNSS 基線⑧に対応します。　（国）：国土地理院

・2015 年以降、活発な噴気活動が続いています。
・一時的な地震の増加がみられることはありますが、2020 年以降、火山性地震は概ね少ない状態で経過しています。
・傾斜観測では、火山活動によるとみられる変化は認められません。火山性地震の増加や GNSS 連続観測で基線の伸びがみられた時期に、台ヶ岳南観測点で大涌谷方向が隆起する変化がみられたことがあります（黒矢印）。
・GNSS 連続観測では、裾野２（国）-小田原（国）の基線で５月頃からわずかな伸びの変化がみられていましたが（赤矢印）、８月頃から停滞しています。
・裾野２（国）-小田原（国）の基線では概ね２年毎に繰り返し伸びの変化がみられています（□）。

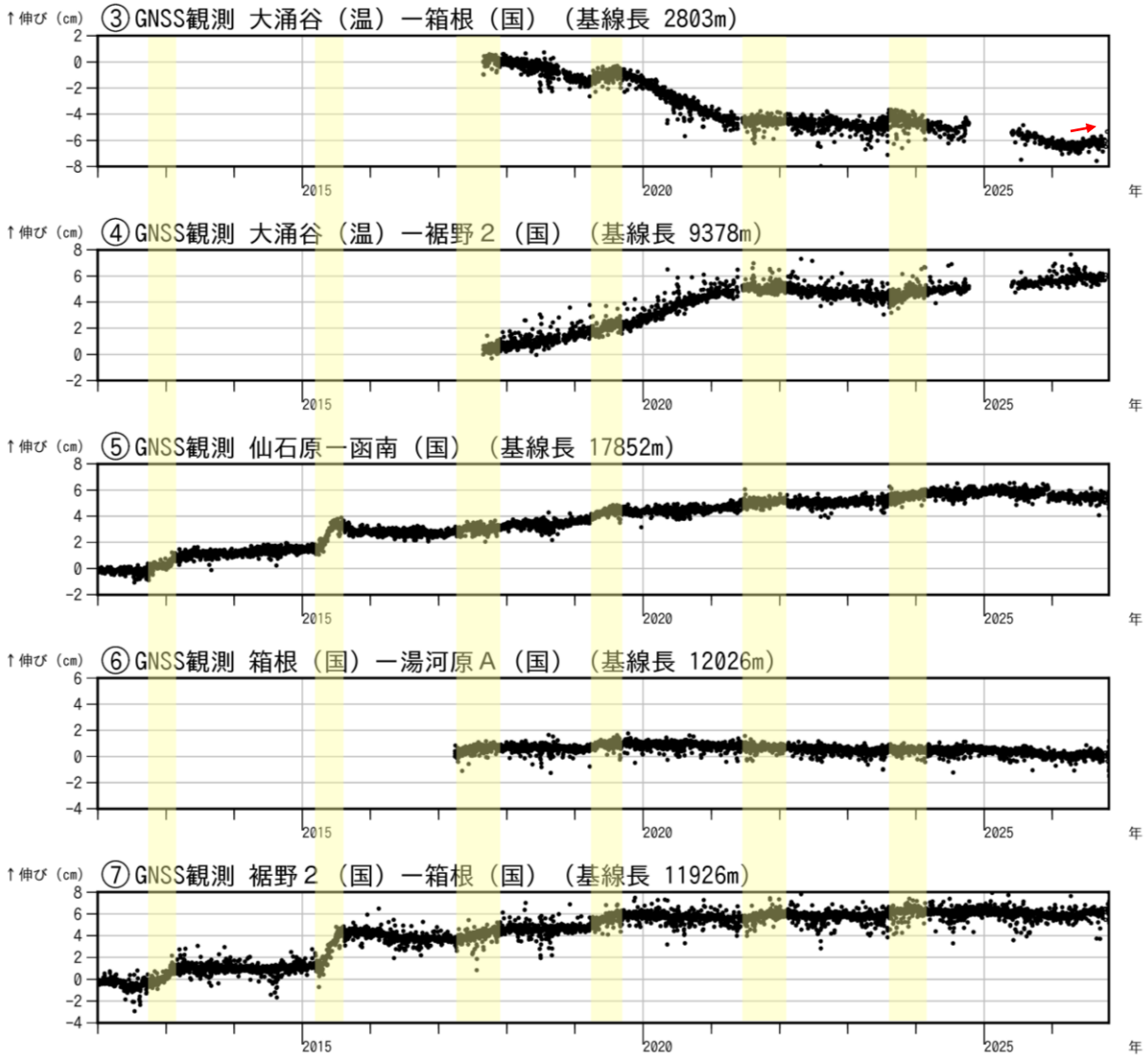
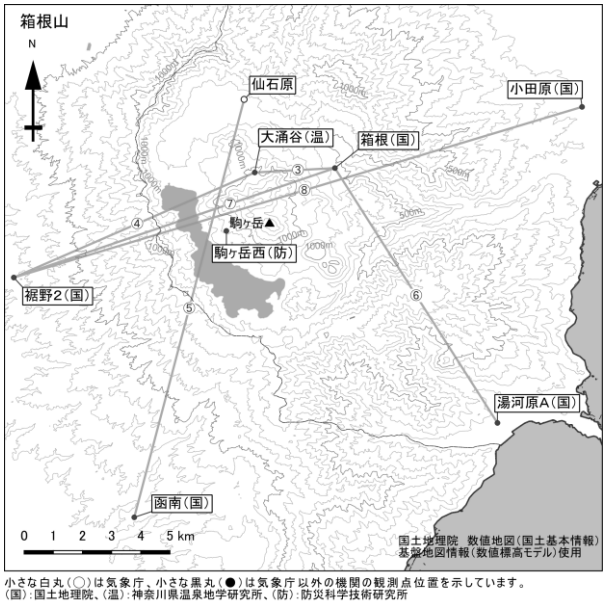


図３－２　箱根山　GNSS 連続観測による
基線長変化及び観測点配置図
（2012 年１月１日～2026 年 10 月 31 日）
（国）：国土地理院
（温）：神奈川県温泉地学研究所
（防）：防災科学技術研究所
空白部分は欠測を示します。

・GNSS 連続観測では、一部の基線でわずかな伸びの変化がみられていましたが（赤矢印）、８月頃から停滞しています。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院、（温）：神奈川県温泉地学研究所、（防）：防災科学技術研究所

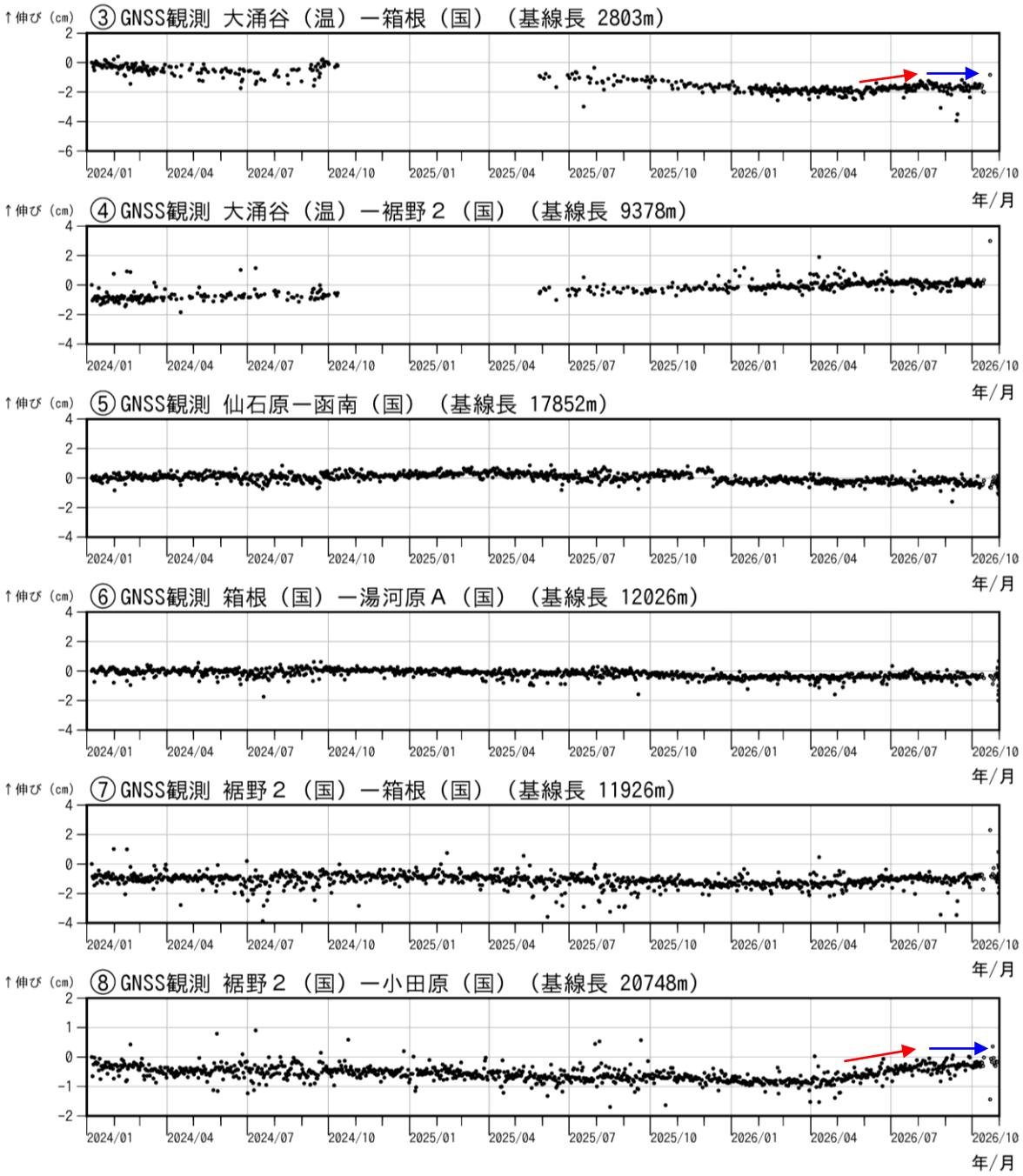


図３－３　箱根山　GNSS 連続観測による基線長変化（2024 年１月１日～2026 年 10 月 31 日）

（国）：国土地理院
（温）：神奈川県温泉地学研究所
（防）：防災科学技術研究所
空白部分は欠測を示します。

・GNSS 連続観測では、一部の基線でわずかな伸びの変化がみられていましたが（赤矢印）、８月頃から停滞しています（青矢印）。

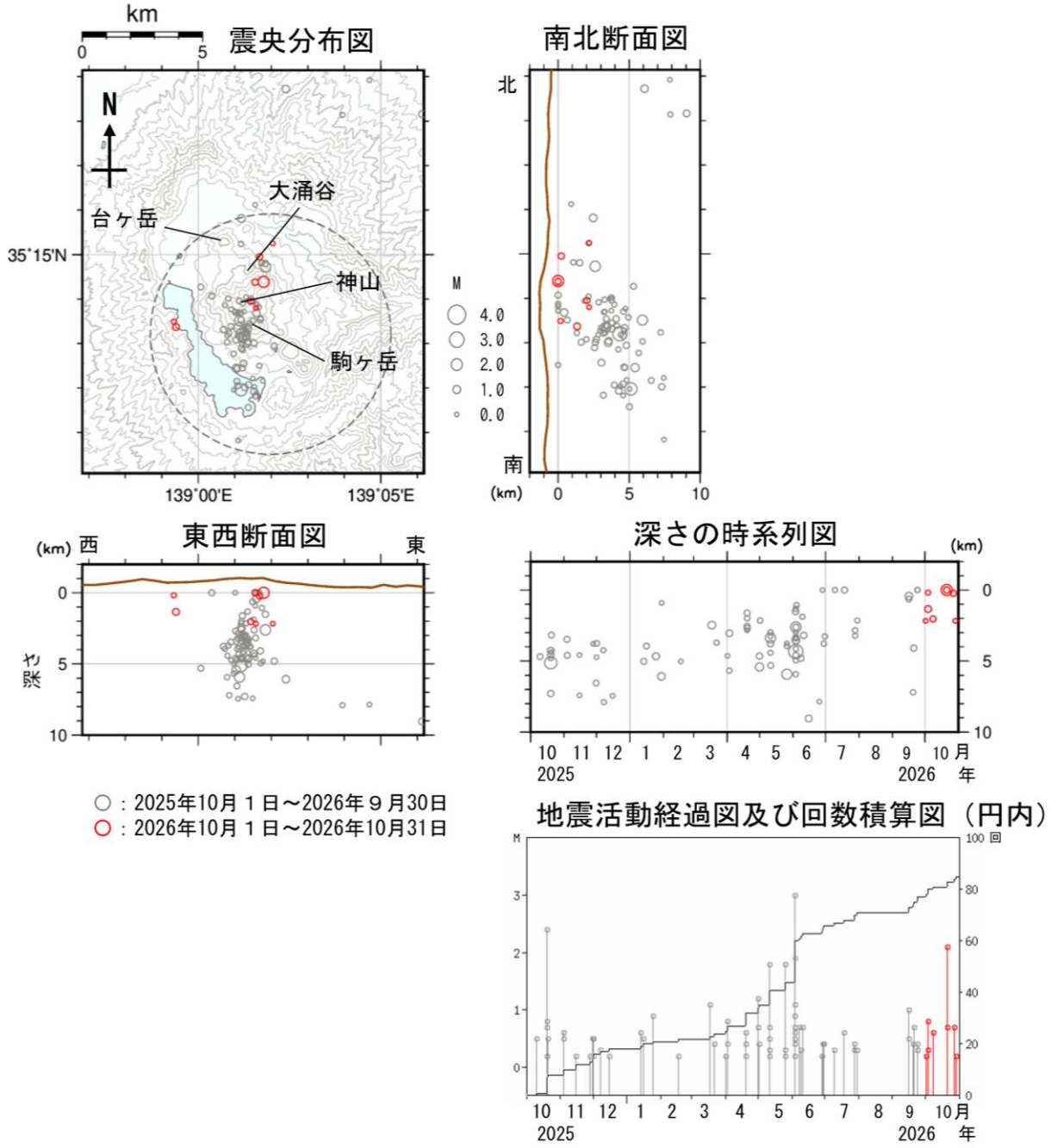
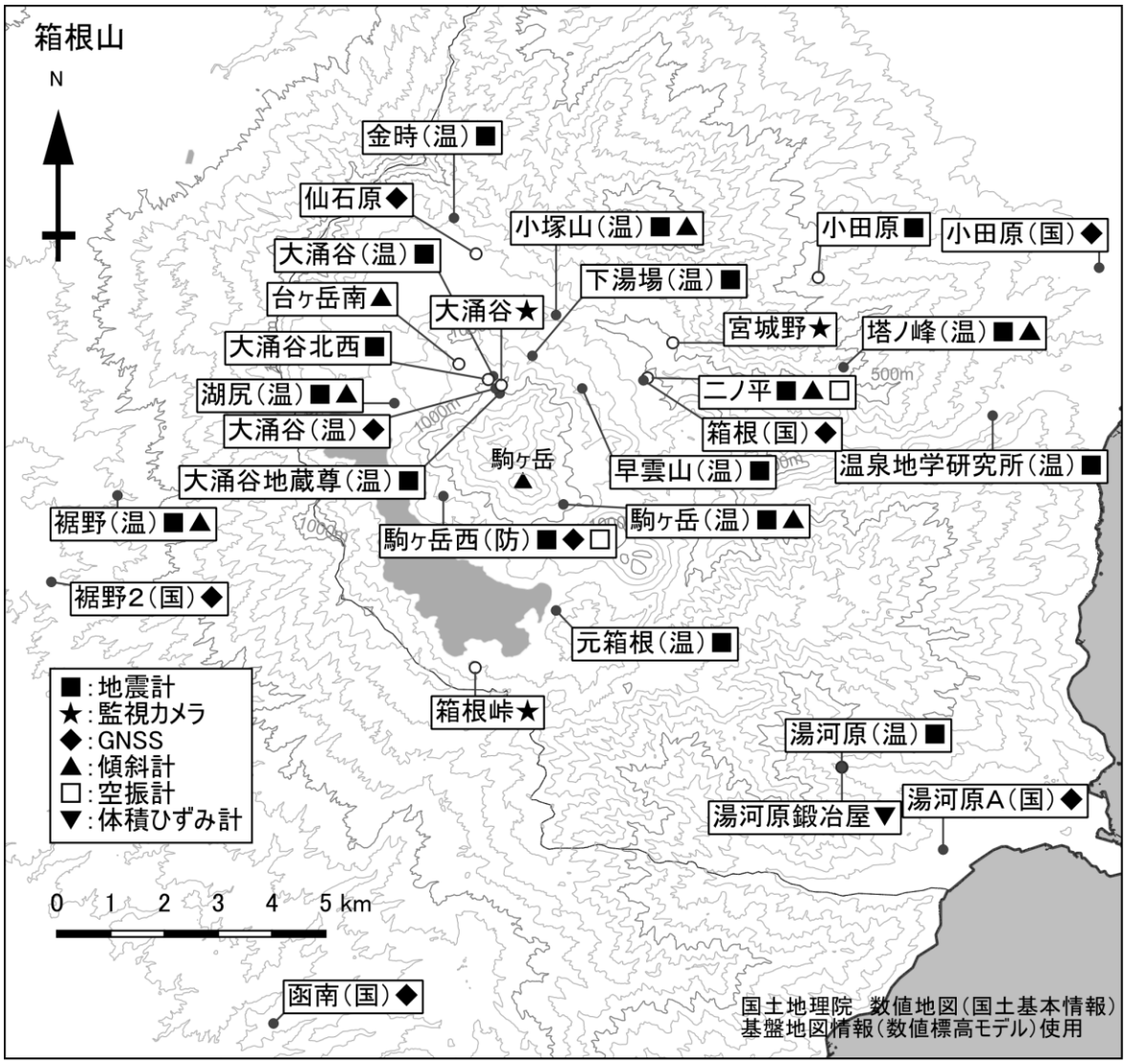


図４　箱根山　広域地震観測網による山体周辺の震源分布図（2025年10月１日～2026年10月31日）
広域地震観測網により、深さは全て海面以下として決定した震源を示しています。
なお、地震観測点の標高を考慮する等した震源決定の手法を用いています。
Ｍ（マグニチュード）は地震の規模を表し、M0.2 以上の地震を表示しています。
震央分布図中の円（駒ヶ岳(温)から半径５km、深さ 10 km以内）は地震回数の計数範囲を示しています。
図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

・21 日に駒ヶ岳付近を震源とする地震が増加しました。このうち、02 時 40 分に発生したマグニチュード 2.1 の地震では、小田原市久野で震度１を観測しました。



小さな白丸（◯）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院、（温）：神奈川県温泉地学研究所、（防）：防災科学技術研究所

図５　箱根山　観測点配置図